

みこころ



カトリック松山教会

〒790-0003 松山市三番町四丁目 5-5

TEL.089-921-1849 FAX089-921-2109

ピーター・ジャ・レ神父 O.P

発行 広報活動委員会

兄弟姉妹皆さん、平和とイースターの祝福が、皆さんの上にありますように。



カトリック松山教会

担当司祭

ピーター・

ジャ・レ神父 O.P

復活祭の典礼を祝うことによつて、イエスが本当に復活され、死に打ち勝ち、その復活された「いのち」にあずかるよう私たちを招いてくださるといふ信仰が深まりますように。復活祭の典礼が、パスカルの神秘、すなわち、キリストにあつて死に、新しい「いのち」へとよみがえる時について、私たちが、より深く理解し、感謝する助けとなります。みことばの典礼は、その物語を再現し、ミサの聖なるいけにえの中で、主が新たに、ご自身をささげられるとき、私たちは、よみがえられた主を、喜びをもって、私たちの真ん中で祝います。私たちは、罪と死と恐れ of 奴隷状態から、私

死に渡された、神への感謝の精神をもってこれを行います。

私たちは、復活節の間に、「キリストはよみがえられた、アレルヤ」と宣言し、復活に深く感動する者として、生きることができま

ように願っています。そして、私たちは、まだ信仰の旅路の中で、復活した主との霊的な出会いが、私たちに深く触れ、主が弟子たちにされたように、私たちを変えてくださいますように頑張っているのです。

私たちが、個人的な内省の時間を持ち、家庭で家族と過ごす時間を増やすことができるように、復活が私たちが最高の自分に導いてくれますように。

復活の新しい人生を生きる時、私たちが今いる場所で、より多くの個人的な時間を持つという利点を生かし、私たちが、最高の自分自身になれますように。

聖アウグスティヌスが「イースターの民」と呼んだように、弟子として、また、証しのために自分の時間、才能、宝を捧げることが約束する執事として、変容する民となるよう、皆さんをご招待しています。

皆さんが、復活に深く感動し、こう宣言する人として生きることです。

復活に深く感動した人々のように生き、次のように宣言することです。「キリストは、復活しました。アレルヤ、アレルヤ！」



聖週間を通して、典礼に惜しみなく貢献してください。この中には、特に典礼委員の方々、侍者を含め、皆さん、忍耐と努力に感謝いたします。この聖週間の典礼に、三日間ではなく、いつも、時間をかけて、私たちが、礼拝を行う準備をしてくれたことに感謝します。

次に、地域委員をはじめ、議長をはじめ、議員の皆さんの犠牲と奉仕の意志に感謝します。いつも、礼拝がスムーズに進むように、準備し助けてくれていきます。

私たちは皆、主の「平安があなたがたにあるように」と、主が私たち一人一人に語られますように。

世界が、与えることのできない平和である主イエス・キリストの平安の祝福を、受けることを祈ります。



2月18日

2024年2月18日

山口聖智（まさとも）司祭による初ミサ。
このミサは、私にとって大切なミサです。
今日のテーマは、「原点に立ち返る」です。



山口 聖智司祭

毎日の暮らしは大切でしょう。
あまりにも世間の表面的なこと、あるいは自分自身の気持ちによって、不自由になっていませんか、心が乱れていませんか。いつも何かに腹を立てていませんか。あるいは本当は何かにおびえているのではありませんか。どうしてか、それは、神様のことを一番大切なことを忘れていないのですか。私たちは、何処からきて、何処へ向かうのでしょうか。この四旬節は、**原点に立ち返る**ことです。私たちは、ここで何をしないといけないのか、まずは神様との関係、周りの人たちとの関係を深めます。そして**原点に立ち返る**、それらはイエス・キリストの命を預かることです。

四旬節には二つの意味があります。

一つは**回心**。原点に立ち返ることです。

もう一つは、**洗礼の準備**をすることです。

私たちは、洗礼によって、新たな命を受け入れたのです。もう一度、自分の受けた洗礼の意味を考え、**原点に立ち返る**、四旬節の大きな意味になります。ミサ後、祝賀会が開かれました。

司祭叙階式・スライドで上映

祝賀会では、柏原 勝利議長による、司祭叙階式の様子がスライド写真で紹介されました。



山口 聖智【トマス・アキナス】

1983年8月16日生まれ

40歳（福岡）

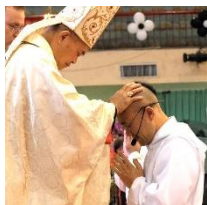
東京大学総合文化研究科（修士）
中国文化大学中国文学科（修士）

カトリック松山教会で助祭として奉仕。1月20日台湾高雄大司教区、ペトロ劉振忠大司教様が司式



按手（あんしゅ）

私は、叙階式の時にこの言葉を述べました
「私は、聖ドミニコのように慈悲深く、忍耐強く、思いやりがあり、喜びにあふれた殉教者になります」
それが私の原点です。



按手（あんしゅ）



諸聖人の連願（れんがん）



台湾道明中学校の道茂講堂にて



私たちの世界へ、ようこそ



桜の花を刺繍



叩頭の礼（こう頭）感謝





山口 聖智司祭と



山口司祭のご両親



パウロ酒井 補佐司教様と



ジェラルド・ティモネル総長様と



1000人が参加



2人の司祭誕生



要があります。

助祭として、松山教会に来て下さり、助けて下さったことを、とても嬉しく思い、感謝申し上げます。私だけでなく、教会の皆さんも同じ気持ちだと思えます。山口神父様、私は、司祭になって2年半という短い期間ではありますが、同じドミニコ会の兄弟として、少しでもアドバイスをしたいと思えます。私たちは、司祭として、多くの挑戦や、困難があると同時に、刺激的な時間や喜びもあるでしょう。試練や困難に直面しても、なぜ私たちは、最初に司祭になったのか忘れないでください。私たちは、常に、「召命の源」に立ち返り、最も聖なる聖体の中で、イエスとの親密さを見出す必要



とができて、うれしく思います。



ジャ・レ神父からの手紙

山口神父様・司祭叙階、おめでとうございます。この数ヶ月間、松山教会で共に生活し、支え合うことができて、うれしく思います。



助祭として、松山教会に来て下さり、助けて下さったことを、とても嬉しく思い、感謝申し上げます。私だけでなく、教会の皆さんも同じ気持ちだと思えます。山口神父様、私は、司祭になって2年半という短い期間ではありますが、同じドミニコ会の兄弟として、少しでもアドバイスをしたいと思えます。私たちは、司祭として、多くの挑戦や、困難があると同時に、刺激的な時間や喜びもあるでしょう。試練や困難に直面しても、なぜ私たちは、最初に司祭になったのか忘れないでください。私たちは、常に、「召命の源」に立ち返り、最も聖なる聖体の中で、イエスとの親密さを見出す必要

た開かれた心で、あなたを待っていることです。教会の皆さん、私たち司祭は、多くの困難や試練に直面する中で、皆さんの祈りを必要としています。私たちの誰もが、そうであるように、司祭の苛立ち、人生の浮き沈みや、自分の聖職が、どのような経験をするのかという不安が、彼らが意欲をなくしてしまう瞬間があります。だからこそ、司祭が新たな熱意と献身をもって使命を遂行できるよう、皆さんの祈りと支援を必要としているのです。日本の教会に、召命が増えますように、山口神父、司祭として、勇気と希望を常に持ち、今まで、やってきたように、神の民に分ち合うことができますように、お祈りいたします。

そして、私たちは一人では、歩けないことを忘れてないでください。イエス・キリストの教会と、その民のために奉仕するこの旅には、私たちに同行してくれる、兄弟姉妹たちが必要なのです。良い人たち、特に同僚の司祭たちに囲まれて、一緒にリラックスし、交流し、祈り、打ち解ける人たちと啓発するよ

うな、会話することが大切です。

一人で、我慢して、頑張りな

初ミサを終えて
希望と喜び

2月18日

山口 聖智神父（ドミニコ会 中華聖母準管区）
2月18日に、松山教会で、初ミサを捧げさせて
いただき、ミサの後には、盛大な祝賀会を開催し
ていただきました。



ミサは、神父一人であつてはいるようですが、実は
そこにどれほどたくさんの方のいろいろな働き、
思い、喜び、悲しみ、後悔、そして希望があること
か。ミサは、遠くローマの何かことさらのことでは
なく、私たちの松山での、日々の暮らしの中に
あり、そしてなおかつ、その頂点であると実感し
ました。
みなさん、ありがとうございます。
そして、ミサを引き続き、みなさんの日常の真ん
中に置いてください。「まどい」の真ん中に、イエ
ス・キリストがいらつしやると、そこから「愛」が
ほとばしり出るでしょう。

暮らしのいいこと、悪いこと、全てに意味が出てく
ると思います。

私は、松山教会で気付かせていただいたことがあります。
ます。

それは、私が司祭であっても、直接には人を救う力
はないということです。

救いは、イエス・キリスト、神の愛によるものだけ
ですね。

それでも、もし私が本質的に、人を助けることができ
るものを、何か持ち合わせているとするならば、

それは単に神様からいただいたその「愛」でしか
ないということです。

それは、具体的には「慈しみ」、「忍耐」、そして根
拠ある「喜び」として現れるでしょう。

聖ドミニコのように、この恵みを神様に、豊かに、
いただいたドミニコ会士の司祭でありたいと思
います。

いま、日本社会は縮小し、経済も停滞し、私たちの
気分は沈みがちです。

しかし、社会がどうであれ、時代がどうであれ、私
たちの希望の根拠はイエス・キリストです。

私たちの心を、不安に持たせていかれてはなりません。
もし、1パーセントでも、希望があるのなら、私
たちはそれに賭けてゆくべきです。喜びをもって賭
けてゆくべきです。これを信仰と言います。

私たちに、常に希望が、喜びがあります。

それが私たちの生き方であり、信仰であり、松山教
会の本当の姿です。



山口司祭 感謝の言葉

私たちは自分を開き、自分を超えた方から恵みを頂いたとき、その時、初めて、私たちは人間であることを完成させていくことが出来ます。本当の自分になつていくことが出来ます。真の幸せを見つけていくことが出来ます。私の使命は一人一人が、真の人間になつて行き、人生の道行きをたたえる事です。



この方が、イエス・キリストです。自分を開いて、信頼に自分をかけてみようと思えます。これが人間だからです。これが「愛」のうちにあるということなんです。これからも応援してください。誠にありがとうございます。

私たちの人間性を破壊し、私たちが自分の中に引きこもらせ、私たちを超えた方の恵みから、引き離そうとする悪と戦うことです。私は弱いです。しかし、私は、私を超えた方、この方を神様と言います。神様は「愛」です。この方の「愛」を信じます。完全な方が、あえて弱い人間になつて、私たちの間に住み、十字架にかけられ、復活されたこの方の「愛」を信じます。

ベーデン・パウエル 生誕記念ミサ

2024年2月11日

「そなえよ つねに」を合言葉に、野外活動を通して、自然・仲間・自分自身としつかり向き合い、自主性・協調性・社会性を育んでいくスカウト達です。生誕167年を迎え記念のミサです



創始者 ロバート・ ベーデン・パウエル	夫人 オレブ・ ベーデン・パウエル
1857年 2月22日生	1889年 2月22日生

2月11日



ジャ・レ神父様から、お祈りを受けました。祝福の源である神よ、感謝の心をもって、捧げるわたしたちの祈りを聞き入れ、ここに集まっている、スカウトの皆さんの上に豊かな祝福を注いで下さい。

スカウトの奉仕活動

3月10日

2024年3月10日
カトリック松山教会にある聖堂の花壇に、スカウトたちが、花を植える奉仕活動を行いました。八重咲ストック・マーガレット・シクラメン・ビオラなど5種類の花が植えられました。



この子供たちが、順境においても、逆境においても、あなたの愛から離れることなく、健康で、明るい家庭の中で、両親、友達、仲間たちの暖かい愛に包まれて、あなたが選んだ道を進む彼らを守り導いて下さい。あなたの光の中に進み、行く先々であなたの愛を感じる勇氣を与えて下さい。この人たちが強くなり、人生において、良い決断ができるように、力を与えて下さいますように。



ジャ・レ神父様による復活祭ミサ



復活祭・祝賀会

3月31日

イエス様の復活、おめでとう
ございます。
十字架で死んだイエス様が、
3日目に復活し、今も、生きて
私たちと共にいて下さるこ
とを祝います。
ミサを通して、闇から光へ・
絶望から希望へ・悲しみから
喜びへ・と変わります。
「聖書」・「祈り」・「共同体」
の3つを大切に感謝します。
ミサは最高の祈りです。



コロナ禍が緩和されて、迎えた復活祭。
ミサの参加者は、210人以上に上りました。



4年ぶりに卵（イースター
エッグ）を配りました。



信徒のみなさんから
愛情のこもった、手作り料理。



信徒による独唱や、ベトナムの若者たちによる合唱

山口神父様のお言葉
それぞれのミサで、復活した
イエス様に出会って、愛に生
きて行く、道のりが続きます。
愛というのは一人ではなく、
皆さんがいるから愛ができる
のです。
共同体です。手を取り合って、
一步一步、イエス様の愛・神様
の愛を、みんなで分かち合い
ましょう。



復活祭・祝賀会

3月31日

食事をしながら、
信徒のふれあい・
喜び・談笑に盛り
上がる。



フィリピンから来
ました、シスター
「リタ」です。



地域ネットワークのみなさんによる
歌と踊りを披露



ボーイスカウト愛媛県連盟松山第10団・
ガールスカウト愛媛県第1団



「開かれた教会」
スカウトが生まれ、
青少年活動をする。

感謝状

カトリック松山教会様

あなたは 永年に亘るご交遊とご協力
により ガールスカウト運動の向上と
発展に大きく貢献されました
よってここに深く感謝の意を表します

2024年2月10日
公益社団法人ガールスカウト日本連盟
会長 間奈の恵

稲毛神父様のお言葉
主があなた方を祝福し、
あなたがあなた方を祝福し、
主があなた方に御顔を向け、
あなたがあなた方に御顔を向け、
あなた方を照らし、
恵みを与えてくださいます様に
主があなた方に御顔を向け、
平安を与えてくださいます様に
父と子と聖霊の祝福が
みなさんの上にあります様に



スカウトの指導・育成に賛助会の
加入のお願いします。

ガールスカウト日本連盟より、
カトリック松山教会に感謝状



祝・成人式

2024年1月14日(日曜日)成人式

1月13日



マリア・テレサ
村上 愛子さん

長崎のマグダレナ
竹田 亜那さん

ヨハネ
田窪 晃汰さん

ジャ・レ神父様から祝福の祈りです。
あなた方は、今から責任ある社会人として、新しい成人の道を切り開き、歩み始めます。
神様に感謝するとともに、人生の、紆余曲折において、神様が私たちを守り、導いてくださいますように、祈りましょう。
全能の神、主イエス・キリストよ、新しい人生の準備が始まる、この人たちの上に、祝福を注ぎ、助けとなる、聖霊を送ってください。
知恵と理解、油と勇氣、神を知る恵み、神を愛し、敬う心をお与えください。



ヨハネ・テレサ・村上 愛子
成人の日を迎えられて、これから、しっかりした大人になるために努力をし続けようと思います。

長崎のマグダレナ・竹田 亜那
これからの人生を楽しく生きること
どんな人にも手を差し伸べる人
になりたいと思います。

ヨハネ・田窪 晃汰
これから、一生涯を通して責任ある
行動を取りたいと思います。



祝・洗礼式

2024年3月30日

3月30日

カトリック松山教会で、洗礼式が行われました。
洗礼を受けたのは、岩本 篤史さんです。
おめでとうございます。霊名は、フィリポです。
私たち共同体の信徒として加わりました。
ペトロ川上 栄治神父様のもとで、一年以上勉強をし、洗礼の秘跡を授かりました。



フィリポ
岩本 篤史さん

代父として、竹田 真生さんが、洗礼に立ち会いました。

岩本さんは、「以前からキリストに興味がありました。神様の子供として、新しく生まれ変わり、穏やかな気持ちになります。これからも、よろしく願います。」代父の竹田さんは、「共同体の友人として、暖かく見守ってあげたい。」と話していました。

シター祈りの響き

2024年1月28日

1月28日

「シター」と歌う平和への祈り〜をテーマにカトリック松山教会の聖堂で開かれました。音楽は、国境や宗教、言葉の壁を越え、人々の心に平和をもたらします。

「祈りの楽器」シターの音色に響き合う歌声に、平和を願う心の種蒔きになることを願っています。



祈りの楽器・シター (cithare/仏)

シター・白井 朝香さん

広島在住のヴァイオリン・シター奏者。

シターは、南フランスの修道院を中心に、神を賛美する歌や感謝の祈りの伴奏楽器として、伝えられてきた弦楽器です。歴史は古く旧約聖書の詩篇の中にもあります。120本余りの弦を張り、右手で旋律、左手で和音を指で弾いて演奏します。

ソプラノ・益田 由身子さん
カトリック広島司教区主催の
宗教曲のソリストを務める

バリトン・益田 眞さん

カトリック広島司教区における
聖歌隊指揮者

マグダラのマリア・私をお使いください・マラナタなど13曲を演奏しました。

素朴な楽器ですが、天から降りそそぐような美しく、優しい響きをもつ癒しの音色は、訪れた人たちの心に深く響き渡ったようでした。



今回のコンサートの売り上げの一部を「能登半島地震」で被災した方々の為に寄付しました。

ゆうあい喫茶 手作り品販売

2024年1月28日

1月28日

ミサ後、ゆうあい喫茶のコーヒー・紅茶の飲み物が用意され、サンドイッチも販売しました。



手作り品の販売会も開かれ、久しぶりに、90人を超える信者さんが集まり賑わいました。また、本の譲渡会も開かれました。売り上げは、カトリック松山教会へ献金しました。





松山教会 竹田 真生

2024年2月23日(金)〜24日(土)

2月23日

カトリック徳島教会で、行われた大阪高松大司教区

青年交流会にジャ・レ神父様と参加しました。

今回の目的は、新しい教

区の設立を受け、大阪の

青少年の方が、四国の青

少年の皆さんと交流し

たいとのいうことで、実

現しました。

コロナ禍により青少年

活動を長らく自粛して

いたため、久しぶりの集

いでした。高松教区内の

青少年も、久しぶりに顔

を合わすという中で、新

しい仲間(大阪教区の青

少年)との交流という形

でしたが、年齢も近いと

いうこともあり、集まっ

た25名は、あつという

間に仲良くなっていっ

たように感じました。



今回は「交流」が目的のため、楽しく盛り上がる活動が多かったです。阿波踊り体験・食事作り・交流会(お酒を交わしながら)と2日間ではありましたが、同じ場所、同じ時間を、同じ年代の人たち過ごすことができ、言葉では、言い表せないくらい濃い交流会だったと思います。この交流会の最後は、

高山神父様司式のミサも行われました。

そのミサでの福音は「敵を愛し、自分を迫害する者

のために祈りなさい」という内容でしたが、私たち

青少年にとって、そのキーワードは重く、理解しが

たいものでした。しかし、お説教を教区青少年担当

の春名神父様がわかりやすく、丁寧に流暢な関西弁

でお話しをしてくださいました。

「敵を愛す⇨敵を(大)好きになること」ではない

ということ、敵(自分の苦手な相手)に対しても

すぐに嫌いとは判断して縁を切るのではなく、その人

の長所などを見て感じてその人も認めてあげること、そして、その出会いも大切にしていきたいよ

うと解説していただきました。また、主の平和の挨拶

では、今回の集いに参加した青少年や神父様たちと

一人ひとり握手をして回り、ご聖体を頂きました。

私は、この交流会をきっかけに今後は、大阪教区の

青少年と高松教区の青少年が一つになることが最

重要課題であると考えています。



今回の集いで、終わりではなく、そこで学んだことや課題などを、今後の青少年活動に活かしていきたい、青少年活動を維持していかなくてはなりません。簡単なことではないし、楽しくという気持ちだけでは難しいということは、重々承知しておりますが、大阪高松大司教区の所属の一人の青年として、これから頑張っていきたいと考えています。

ただ、一つの教区になったからといって、高松教区

でこれまで実施してきた青少年活動を完全に無く

すことはできません。

今後は、どのような方向性で、青少年活動を実施し

ていくのかを話し合う集まりが、5月に松山教会で

開催されることも既に決定しています。

大阪高松大司教区の青少年活動が、より良いもの

なることをお祈りしながら、全力で取り組み、活動

に参加していきたいと思っております。

松山教会の信者の皆さんに、ご支援やご協力を仰ぐ

ことになるかもしれません、その時はよろしくお

願いいたします。

最後になりますが、今回この企画を考えていただいた

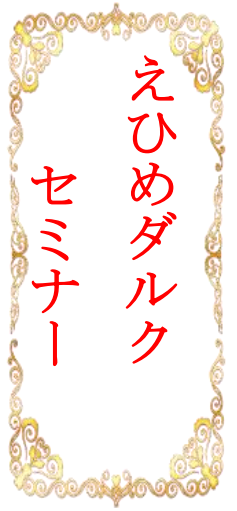
神父様、快く教会施設をお貸し下さった徳

島教会の信徒の皆さん、また参加費を負担して

いただきました、松山教会の関係者の皆さんに深く感謝

申し上げます。

本当にありがとうございます。



1月13日

「つながる」依存していますが、いいですか？

岩本 麻里子

2024年1月13日(土曜日)

コロナ以降、オンラインで開催されていた、えひめダルクセミナーが今年は、カトリック松山教会での会場参加とオンライン参加の方法で行われました。カトリック松山教会は、えひめダルク支援会の一員としてダルクに関わっています。

様々な依存症からの回復を目指し日々、活動している仲間たちと共に歩めたらと思っています。



岩本麻里子
倉田 めば
えひめダルク
支援会会長
射場 和子



えひめダルクD
村上 亨
えひめダルク支援会
太田幸伸

さて、今回のセミナーには、大阪ダルクダイレクターの倉田めば(くらた めば)さんを講師にお迎えして講演とパネルディスカッションを行いました。倉田めばさんは、尾道市の出身で、大阪写真専門学校を卒業しました。

1993年フォトグラフィアーの仕事をやめ薬物依存回復施設「大阪ダルク」を設立しました。2002年、薬物依存症から回復を支援する市民団体「Freedom」を多くの賛同者と共に設立しました。新たな社会資源の創出に向けて奔走中です。メンタルヘルス・ソーシャルワーカー。パフォーマンズ・アーティスト。



大阪ダルクDC
倉田 めばさん

14歳のときから、シンナー、鎮痛剤、大麻、処方薬などを乱用し始めました。18歳のときに、東京に家出し、リストカットも止まらなくなりました。22歳の時、薬物依存と自傷のため初入院。以降29歳までに4回の入院を繰り返す。20代の2年近くを精神科病棟で過ごす。29歳のときに、自助グループと依存症の回復施設につながり、クリーン(薬物を使わない生活)が始まり現在に至っています。めばさんの半生を包み隠さず、私たちに語りかけるその内容は、とても心に響きます。ただ、そのお話しは、決して、特殊な環境だから起こった事ではなく、平凡だと思っている自分の生活の中でも、起こりうる事ではないのかと、考えさせられました。

何かが、少し違っていたから、その時の自分は、その危機をやり過ごせただけではないのかと思いましたが、

パネルディスカッションでは、私も教会での経験や自分自身の経験から思うこと、考えている事を、少しお話しさせていただきました。

ダルクにいる彼、彼女たちの、ダルクに繋がった、経緯などを聞く度に「彼、彼女たちは、自分だけではどうにもできなかつた。けれど、仲間とつながること、より良く生きる道を、選んだからそこにいる」と感じます。



それは神様の存在を知り、神様に自分を委ねることを目指して生きる私にとって、とても共感できる事です。彼らの選択は、必ずしも、積極的ではなかつたかもしれない、消去法で残ったのがダルクだったかもしれない。それでも今日一日、と薬を使わない日を重ねていく彼らの生き方を私は見習いたいと思います。

自分も今日一日、何のために、誰のために、何ができるか、何をするのか日々を重ねて生きていきたいです。

「さちいさや」さんは、大学の時、「キング・オブ・キングス」という、イエス・キリストの生涯を描いた映画を見ました。その時、ドーンという大きな衝撃が胸の奥へと伝わって参りました。そのことを経験してから、イエス様は、これほどまでに自己犠牲をされて、私たちに「愛の心」の大切さをお示しになられたのだと思いつつ創作を致しました。イエス様の悲しみが、ひしひしと伝わってきたことを覚えております。



「イエス・キリストと十字架」展が、2024年3月24日から30日まで、カトリック松山教会のセンターで開かれました。
 1951年、愛媛県に生まれ（73歳）。
 創作者は、今治市に住む「さちいさや」さんです。



3月24日



今回、展示した、はり絵は、十字架を担いでいるイエス様の受難を主に表現させていただきました。ほんの少しの他人への、思いやりの気持ちと、いたわりの気持ちを、全世界の皆様が持てば、この地球からは戦争は無くなります。地上は、平和と愛と幸福で満ちあふれてきます。イエス・キリストのはり絵を通して、全世界の皆様「愛の心」と「利他愛の実践」の大切さをお伝えしてゆくことができたらと考えております。



●**帰天者**（3月以降）
 2・22 アンドレス
 望月 迪昭（みちあき）さん（92）
 3・20 ヨゼフ・フランシスコ・ザビエル
 日野 嘉雄さん（83）
 ●**転出者** リタ 松本 典子さん
 ●**転入者** マリア・テレジア
 樽見 多鶴子さん

教会維持費の振込先
 ゆうちょ銀行
 口座名：
 カトリック聖ドミニコ修道会
 イエズスの聖心教会
 記号
 16160
 番号
 26197851



教会の維持費ですが、ゆうちょ銀行への振り込みが可能です。